

京都市文化観光資源保護財団

会報

77

NO.

1999. 7. 1

もくじ

—寄稿—

「京都の植生」

京都大学名誉教授・当財団史跡管理専門委員会顧問 北村四郎 P 2

「深泥池を美しくする会30有余年の歩み」

深泥池を美しくする会会長 井上庄助 P 4

—保護財団の活動—

P 6





京都の植生

北村四郎

京都は適度の雨が降り、春夏秋冬と四季に温度が変わり、周辺の山には植物の種類が多い。現在の植生は、人手が入って美しい。

京都の人口が増えるに応じて、植生も変わった。人の少なかった頃の原生林に近いものとして保護されているのは、西京区松尾大社の裏山の社叢である。シイ・アラカシの林にクロバイ・シロバイ・ツバキなどの常緑広葉樹があり、京都ではここだけにカギズラというつる性で葉のつけねの下にひっかかりのある珍しい暖地植物がある。このほか、ルリミノキ・イズセンリョウ・ヌマダイコンなどの暖地植物もある。松尾大社は京都が都となる前からの社で、裏山は久しく人が木を伐らなかったので、人の少なかった頃の様子が保存されている。この社叢は年中黒緑色である。しかし、京都の周辺が全部黒緑色では面白くない。その北の嵐山には、春に美しい花の咲くヤマザクラ、秋に紅葉するタカオカエデなどの落葉樹があり、常緑針葉樹のアカマツも多く、四季に変化があって面

大田ノ沢のカキツバタ群落▶
(国指定天然記念物)



白い。これは都となって以来、人が手入れしてきたからである。

以上は西山であるが、北山や東山についても、京都に人が多くなるに従って、原生林の植生が変えられた。北山では、日本海側に広く分布するウラスギが、北山杉として活用され植林されている。今は丸太を産するが、戦前には茶室用に細くて丈夫な材が作られ、台杉ができた。高雄・槇尾・榑尾は紅葉の名所として名高い。上賀茂神社に近い大田ノ沢には紅紫色のカキツバタが昔から有名で、その東の深泥池みぞろがいけは大昔からの池である。池の水が酸性でオオミズゴケやハリミズゴケの浮島ができ、ホロムイソウ・ヤチスギラン・ミツガシワなど寒いところのものが、この地の寒かった頃から残っており、トキソウ・サギソウ・サワギキョウなどの美しい草があった。戦後自動車の排ガスのため、ヤチスギランはなくなった。この池は貧栄養の植生があったが、戦後下水などにより、富栄養となり、ハスの根が投げこまれて生え、ミツガシワは甚だ多くなり、他の植生を圧した。戦前多かったジ



松尾大社のカギズラ野生地（京都市指定天然記念物）

ュンサイは、戦後塩素の多い水が池に放出されて、ほとんどなくなったが、現在は、塩素の多い水も止められて、ジュンサイが復活した。外来雑草のナガバオモダカやキショウブが増えて、池の植物を圧したが、これらは京都市によって取り去られた。このように管理によって植生が保護されている。池には白いカキツバタが多く、大田ノ沢の紅紫色のカキツバタと対称し、美事である。

東山も戦前にはシイ・アラカシなどの常緑樹のほか、常緑針葉樹のアカマツ、落葉樹のコナラ、アセビ・コバノミツバツツジ・ヤマツツジ・モチツツジなどの低木、またササユリなどの草もあった。戦後燃料が少なく、兵隊帰りで人手が多くなり、山に薪をとり、落葉を肥料にしたので、山は荒れて、アカマツが栄え、マツタケがよくとれた。間もなく、石油が輸入され、

人は山を荒らさなくなり、自動車の排気が行きわたって、マツタケは生えなくなった。アカマツには外来のマツノザイセンチュウで枯れるものが多く、アラカシ・シイ・ソヨゴなどの常緑樹が多くなった。まだ、落葉樹もあり、四季の変化を楽しめるが、適当に管理しないと、黒緑色の常緑林となる。

京都は古い都なので、市中に栽培の大木がある。西本願寺のイチョウの大木、新熊野神社のクスノキの大木、これは後白河法皇が和歌山県の熊野から移したとの伝説がある。市内各地に鳥によってちらばったと考えられている。青蓮院のは美事である。

ツバキの古い園芸品種の老木がある。チリツバキの老木は排ガスのため枯れたが、生きているのは後代に伝えたい。

市内にひとり生えのエノキ・ムクノキも、ケヤキ並木も京都の風情に役立っている。

(京都大学名誉教授・当財団史跡管理専門委員会顧問)



西本願寺のイチョウ（京都市指定天然記念物）



深泥池を美しくする会 30有余年の歩み

井上 庄 助

1965年6月の本会創立より34年目を迎えました。当初より、京都府・市の文化財保護課の御指導を得まして、深泥池と周辺の美化清掃を一つの柱として、年に数回の清掃を始め、文化の日には、町内総出で文化財の保全につとめてきました。

また本会は奈良女子大学の津田博士や、永井かな先生に池の実態調査をお願いしましたし、研究室を設け、府立大学や各学校の研究会の方々に利用されてきました。地学団体研究会の方々の永年の研究や京都大学の数年にわたる総合調査があり、京都市より「深泥池の自然と人」という報告書が出され、天然記念物の名称



貴重な動植物が数多く生息する深泥池。写真は、初夏の水面を彩るヒメコウホネなどの植物。

も水生植物群落から生物群集へと変更されました。

’83年京都市空き缶条例により、散乱防止地域に指定され、市環境美化事業団も美化に協力されることになりました。

創立20周年の記念冊子「深泥池」には、知事・市長の直筆文字や挨拶を頂き、初版8000部は、会員・地域・学校・池来訪者等に無料配布し、愛読して頂き、認識を深め、深泥池が京都いや、世界的に大切なことを知って頂けたらと努力してきました。

また、環境問題を考える会を、隔年に催し、加茂川・上賀茂・深泥池ケシ山地域の古墳・窯跡

等遺跡についての勉強等もしました。

建都1200年には、アスニーの大ホールで、京都市主催の講演会がもたれ、ビデオ「深泥池の自然」の上映に続き、深泥池の歴史等について、講演させて頂きました。

また商工会議所講堂に於て、東大名誉教授・織田敏次氏と京大名誉教授・岡田節人両氏による特別講演会「わたしたちの健康と自然環境」を催すことができ、この記録を元に、本会30周年の記念誌を発行した次第です。

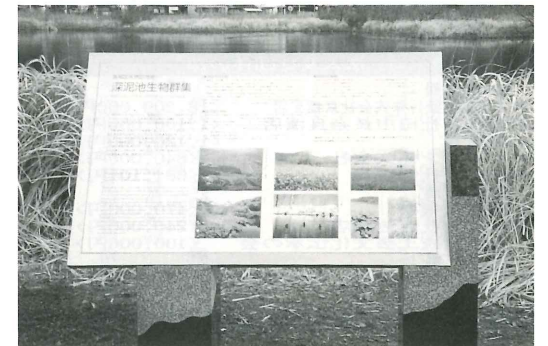
現在では民有地から池の公有化が決まり、過去5年間の京都市の保存修理事業も終り、私も委員として参加した深泥池保全活用方策検討委員会の熱心な討議の末答申がされ、本年3月末、深泥池の保全活用の基本的指針がまとまりました。

それによりますと、14万年の歴史をもつ貴重な自然遺産深泥池を、京都市北山山麓南縁地域の中核とし、行政・専門家・市民等で構成する保全活用専門委員会をつくり、エコ・ミュージアムの視点を取り入れた具体的な検討を継続していかねばならないとされています。市民・地元住民にとっても大変大事な時機を迎えました。

詳しくは、京都市文化市民局発行の深泥池生物群集保存修理事業報告書を読まれ、活発な御意見を発表されますようお願い

します次第です。

(深泥池を美しくする会 会長)



深泥池を紹介する説明板



深泥池周辺でおこなわれるクリーンキャンペーン (写真：中・下)

深泥池の全景

平成10年度 文化観光資源保護事業助成

平成10年度助成申請のありました、四五行事の保存及び執行をはじめ文化財所有者、管理者等のおこなう文化観光資源の建造物、美術工芸品等の保存修理、伝統行事芸能の保存及び執行など保護事業72件に対し次のとおり総額6,727万円の助成をおこないました。

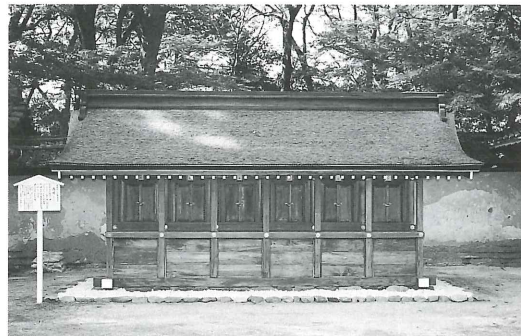
■四五行事（葵祭、祇園祭、大文字五山送り火、時代祭）執行に対する助成

対象件数 4件 助成金 3,948万円

■四五行事（祇園祭山鉦修理事業、大文字五山送り火火床整備事業）の保存に対する助成

対象件数 15件 助成金 731万円

綾傘鉦保存会一綾傘骨折れ補修等、八幡山保存会一辻提灯建軸柱新調、函谷鉦保存会一渡廊下階段新調等、船鉦保存会一御神体の胴新調、橋弁慶山保存会一山搔用衣装新調、油天神山保存会一半てん新調等、郭巨山保存会一鳥居型見送掛新調等、長刀鉦保存会一法被新調等、四条傘鉦保存会一踊子袴新調、保昌山保存会一水引「刺繍鳥獸文」修理、白樂天山保存会一前掛「百子遊図」刺繍修理、大文字保存会一下草刈等、松ヶ崎妙法保存会一妙法火床清掃等、船形万燈籠保存会一下



修復された賀茂御祖神社摂社河合神社の末社六社

助成文化財の紹介

—金戒光明寺の木像不空羼索観音菩薩坐像—



金戒光明寺は、黒谷の名で親しまれている浄土宗の大本山です。

木像不空羼索観音菩薩坐像は、平安時代後期の特徴を示すといわれる仏像で、現在は当

寺の阿弥陀堂の脇侍として安置されており、もとは、一堂の本尊であったともいわれています。

老朽化により損傷著しいため修復され、当財団も助成をおこないました。

草刈り等、左大文字保存会一木立伐採等

■文化観光資源保護事業に対する助成

対象件数 10件 助成金 970万円

●建造物の部 7件 490万円

賀茂御祖神社一摂社河合神社拝殿及び末社六社屋根修理工事、賀茂別雷神社一日供門屋根葺替工事、久昌院一鐘楼屋根修理工事、雙林院一山門及び袖塀修理工事、清凉寺一大方丈屋根葺替修理工事、隣華院一茶堂廊下屋根葺替工事、天球院一茶室蓬庵修理工事

●美術工芸品の部 1件 70万円

金戒光明寺一木像不空羼索観音菩薩坐像修理

●その他施設の部 2件 410万円

財団京都古文化保存協会一松毛虫駆除事業、

財団霊山顕彰会一霊山一帯及び各招魂社周辺整備工事

■伝統行事、芸能の保存及び執行に対する助成

対象件数 43件 助成金 1,078万円

●行事の部 14件 504万円

嵯峨御松明、雲ヶ畑松上げ、賀茂競馬、鳥相撲、藤森駈馬、瑞饋祭、糺の森流鏑馬、北白川高盛御供、鞍馬竹伐り会、日野裸踊、花背松上げ、鞍馬火祭、広河原松上げ、松尾祭桂川舟渡御

●芸能の部 29件 574万円

蹴鞠、雅楽、六斎念仏（吉祥院六斎、久世六斎、中堂寺六斎、梅津六斎、小山郷六斎、千本六斎、嵯峨野六斎、壬生六斎、円覚寺六斎、西方寺六斎、桂六斎）、念佛狂言

（壬生大念佛狂言、神泉苑大念佛狂言、千本えんま堂大念佛狂言、嵯峨大念佛狂言）やすらい花（川上やすらい花、今宮やすらい花、玄武やすらい花、上賀茂やすらい花）、久多花笠踊、八瀬赦免地踊、松ヶ崎題目踊、修学院紅葉音頭、上賀茂紅葉音頭、鉄仙流白川踊、大原八朔踊、上棟祭



助成対象の「千本えんま堂大念佛狂言」

平成10年度 伝統行事芸能功労者表彰式・文化観光資源保護協力者感謝状贈呈式

多年にわたり伝統行事芸能の保存継承、後継者の指導育成などに功績のあった方々と、多額のご寄付を寄せていただいた方々に、表彰状・感謝状を贈呈しているもので、第54回理事会評議員会後同席上においておこないました。受賞者は次の方々です。（順不同／敬称略）

■伝統行事・芸能功労者 12名

北尾長和（藤森神社駈馬会） 西村幹生（北白川伝統文化保存会）
岸本正彦（鞍馬火祭保存会） 上田恒弘（蹴鞠保存会）
藤林正弘（平安雅楽会） 長岡賢信（吉祥院六斎保存会）
中谷新一（梅津六斎保存会） 上田紘一（今宮やすらい会）
増田宗一（市原ハモハニ講中） 米田ソノ（広河原郷土芸能保存会）
今井滋基（嵯峨祭奉賛会） 前川寿男（大堰上野間においお祭保存会）

■文化観光資源保護協力者

（団体の部） 計3件

株式会社一保堂茶舗、住友信託銀行株式会社京都支店、岡秀株式会社

（個人の部） 計12名

太田錠次、金井利夫、渡辺道子、高橋政幸、前田富美、白澤照子、石田美代子、岡本保止、山内信彦、安井春美、伊砂利彦、三宅康雄



受賞者のみなさん

「京の自然遺産」展

天然記念物の保護と自然環境保護の普及高揚を図ることを目的に去る1月30日～2月16日、京都市四条ギャラリーにおいて開催しました。

天然記念物をはじめ、自然を有する主な名勝、史跡及び文化財環境保全地区など京都の豊かな自然の文化財を写真パネルや映像展示で紹介しました。

第9回京の歳時記展「久多花笠踊」展

今回は、重要無形民俗文化財に指定された『久多の花笠踊』をテーマに、去る2月19日～3月7日、京都市四条ギャラリーで開催しました。

花笠の実物、行事過程の写真パネルなどの展示やビデオにより花笠踊及び久多の民俗文化財などを紹介しました。



第29回京の郷土芸能まつり 『都の賑わい―祭り・まつり』



今回は、「京都市自治100周年記念」として去る2月27日、28日の2日間にわたり開催しました。山口市の「鷺流狂言」と秋田県角館市の「飾

山ばやし」の二つの小京都の郷土芸能と京都に伝わる郷土芸能「嵯峨大念仏狂言」など8演目を公開しました。

およそ1,800名の観客を数え、郷土芸能の保存育成に対する理解と協力を呼びかけました。

文化財特別参観

京の文化財探訪
妙心寺塔頭「隣華院」と「天球院」を訪ねて

文化財に親しんでいただき、文化財保護への理解を高めていただくため実施しているもので、今回は普段公開されていない妙心寺塔頭の『隣華院』と『天球院』の建造物や障壁画などを見学していただきました。

3月26日～28日の3日間でおおよそ1,730名の見学者を数えました。

史跡管理専門委員会

去る3月24日、史跡管理専門委員会を開催し、京都市より受託している20か所の史跡などの10年度の保存管理の状況報告や、11年度取り組みなどについて審議や意見交換がおこなわれました。

第54回 理事会評議員会

去る4月15日、第54回理事会評議員会を開催しました。会議では、平成10年度事業報告並びに収支決算、平成11年度事業計画並びに収支予算、役員の一部異動について審議されそれぞれ原案のとおり議決承認されました。なお新役員の方は、次のとおりです。(敬称略)

◎新任

評議員 長田 豊 臣 (立命館総長)

◎退任

評議員 大南 正 瑛 (前 立命館総長)

平成11年度 事業計画

I. 文化観光資源保護事業

■文化観光資源(建造物・美術工芸品等)の保存修理、防災施設整備等の保護事業に対する助成

■四行大事(葵祭、祇園祭、大文字五山送り火、時代祭)、伝統行事、芸能の保存及び執行に対する助成

■文化観光資源をとりまく自然環境の保全及びその整備に対する助成

■文化観光資源の管理

●京都市嵯峨鳥居本町並み保存館の管理運営の受託

●京都市管理の下記の史跡等の保存管理業務の受託

名勝 雙ヶ岡、史跡 天皇の杜古墳、史跡 醍醐寺境内(栢社遺跡)、天然記念物 淀池生物群集、史跡 御土居(7カ所)、史跡 方広寺石塔(耳塚・馬塚)、史跡 鳥羽殿跡、史跡 栗栖野瓦窯跡、史跡 桧原廃寺跡、史跡 平安宮豊楽殿跡、史跡 平安宮内裏内郭回廊跡、史跡 蛇塚古墳、史跡 西寺跡、市登録史跡 福西遺跡 以上20カ所

■文化観光資源に関する調査事業

●伝統行事芸能の実態調査及び写真記録

●助成対象文化財の実態調査及び資料の収集

■文化財保護行政機関等との協議

II. 文化観光資源保護思想の啓蒙普及事業

■財団設立30周年記念事業の実施

■会報の発行

■文化観光資源に関する印刷物の発行

●文化財カレンダーの発行

●「近代京都の名建築」等調査報告書の配布

●その他冊子等の発行及び「京都市文化財ボックス」の受託販売

■文化観光資源公開事業(文遊回廊・文化財特別参観・京の歳時記展・京の郷土芸能まつり等)の実施

■インターネットによる国内外への情報発信

■伝統行事芸能功労者並びに文化観光資源保護協力者に対する表彰

■京都市文化財保護普及啓発事業(「京都市文化財ボックス」、「京都市の文化財」、「京都市文化財だより」、の各製作、文化財保護強調月間事業の実施、公開事業)の受託

■文化観光資源保護協力者(会員)に対する招待事業等

●京の三大祭(葵祭、祇園祭、時代祭)の観覧

●文化観光資源公開事業

●文化財カレンダーの配布、出版物の優待頒布

●その他文化財関係事業の案内

■文化観光資源保護関係団体等がおこなう各種事業の後援

■報道機関による啓蒙活動の積極的推進

III. 募金活動

■現会員に対する追加募金の呼びかけ

■市民募金運動の推進として財団がおこなう啓蒙普及事業を通じての新規法人、個人募金の呼びかけ

会員の皆様のご投稿をお寄せ下さい

当財団は、今年度で設立30年を迎えました。30年を記念し、当会報の次号を記念号として発行いたします。この記念号に会員の皆様からの財団活動に対する暖かいメッセージなど掲載させていただきたいと思っています。

ご投稿いただけます方は、当会報に同封してありますハガキでお送り下さい。お待ちしております。

なお、出来る限り多くの方のご投稿をご紹介しますので、紙面の都合上、字数を制限させていただき又、すべてを紹介できないこともありますのでご了承下さい。

—インターネットホームページの紹介—

当財団では、京都の文化財や観光資源並びに財団活動を広く国内外に紹介するためインターネットホームページを開設しています。このたび、事業の実施にあわせまして「京の自然遺産」「久多の花笠踊」などのページを新たに開設しております。

今後も、逐次更新していきたいと思っておりますので、皆様もアクセスしてご利用いただき、ご意見、ご希望をお寄せ下さい。

ホームページアドレス <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyobunka>

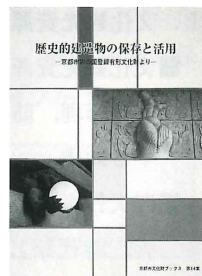
Eメール kyobunka@mbx.kyoto-inet.or.jp



保護財団のホームページ

京都市文化財ブックス 新刊のご紹介

京都市文化財ブックス第14集『歴史的建造物の保存と活用—京都市内の国登録有形文化財より—』が京都市から発行されました。



京都市内の国登録有形文化財の近代建造物が写真をもとに紹介され、国の文化財登録制度についての説明もつけくわえられています。

会員の皆様でご希望の方は、1,300円（送料別310円）で頒布していますので、当財団事務局までお申込み下さい。

◆京都市文化財ブックス既刊のご紹介（すべて送料別）

第9集 『京の名勝—その価値と変遷—』 ￥1,300

第11集 『京都近世の肖像画—市内肖像画調査報告書—』 ￥1,300

第12集 『久多の山村生活用具』 ￥1,300

編集後記



本号では、当財団の史跡管理専門委員会顧問の北村四郎京都大学名誉教授から京都の植生に関して、また深泥池を美しくする会の井上庄助会長から取り組んでおられる深泥池の美化活動などについてそれぞれ原稿を寄せていただきました。

ご一読いただき、京都の自然の文化財について理解と認識を深めていただければと思います。

会報 No.77

1999.7.1

会報題字／理事長 上山善紀

会報表紙／新熊野神社大樟（京都市指定天然記念物）

編集・発行／財団法人京都市文化観光資源保護財団
京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内
〒606-8342 TEL 075 (752) 0235
FAX 075 (752) 0236